

昭和三十六年三月十一日招集(才二日)  
第一回市議定会定例会々議錄



館山市第一回市議会定例会々議録(第二号)

昭和三十六年三月招集

三月十一日(土曜日)

一 議事日程(第二号)

議案第四号 昭和三十六年度館山市文入文出予算

三五号

特別会計公益債償還文入文出予算

三六号

特別会計国民健康保険文入文出予算

三七号

特別会計と畜場文入文出予算

三八号

特別会計波左間及び加賀石地区簡易

水道文入文出予算

三九号

昭和三十六年度館山市特別会計休養施設文入文出予算

一 法百三十一条による出席説明員

第一日目と同じ

一本日の会議に付いた事件

議事日程に同じ

出席議員 三一名

欠席議員 三名

六 委 鴻 田 繁

二 委

安田 達 順

三五 委 山 口 康

副議長(豊川佐太郎君)本日出席議員数二六名 これより

第一回定例会第二日の会議を開きます。

本日の議事は議案第三四号並びに第三九号 昭和三十六年

度一般会計及び特別会計予算案を一括して議題として

これより各款の内容説明を求めます。

前例により一般会計歳出の部を行います。

。秘書課長(山本潤次君) 慣例によりして一般会計支出、人件

費より申しエグります。

一人人件費はこれとこれが入るかというところを申しつけ

ます議會費で議員報酬、吏員給料、給料、私買手当  
これらは人件費に入るものでございます。

五、市役所費で吏員給料、給料、私買手当、災害補償費  
これらも人件費に入ります。

なお本予算編成に当りましては、吏員給では市長、助役  
収入役、三役、給料と事務吏員、技術吏員に相当する  
私務のものを計上した。なお等納によりて付託で  
幾人というふうに分けました。

三、節給料、これは市役所の五等級の私買でござい  
これは事務私買、運転手、使丁、それらが該当する者で  
ございす。

次に五、私買手当の内容を申し上げます。これは扶養  
手当、通勤手当、超過勤務手当、期末手当、勤務手当  
満通手当、特殊勤務手当、これらが私買手当でござい

ます。なお教育委員会の方では、管理取手当、定時制通信教育手当、これらも取買手当の中に含まれます。それから消防の方では、今申し上げたほか、技術手当、夜勤手当等がございます。

それからなお人件費に入るものとしまして、五四頁三三節負担金補助及び交付金、これも人件費に入るものとございます。いすゞ三三節保険料、取買団体保険料として

三十三万二千八百八十円計上しておりますが、これは新年度

から全取買を全国市長会でやっております。団体保険に加入させにくくして計上したものでございす。以上

人件費に入る科目を申上げただございす。この

人件費は一款からオ、四款まで、うち九款、二二款

一四款を除きまして、各款に人件費は計上されております。

うでそれを表にすものとしまして、昭和三十八年度、館山市

私買定数及び予算計上人員調べという表に  
すゝめまして、これにツいて御説明申上げます。  
これは三六年度予算に計上———した私買の数を  
調べたものでございます。これは三六年度の三月現在で調べ  
ましたので、若干相違してゐる点もあります。  
予算計上科目、この欄には各事務部局のことに  
分けて、各予算の項のことに計上された人員を計上  
したものでございます。この事務部局は特別会計も含  
んでおりますが、これは定数条例で定められてゐる事務部  
局のことに分けて、たゞ、こういう結果になつたのでござい  
ます。定数条例で定められてゐる定数は、市長部局三七カ  
議会の事務部局四カ、教育委員会四カと成つて  
おりますが、これは昨日定数条例の改正で四五カになつて  
おりますので御訂正願ひます。

選挙管理委員会三名 農業委員会八名 消防署  
四一知となつております。

それから予算計上人員これは今日予算に實際に  
計上した人員でござります。現在数は三月一日現在おる  
職員、次の定数に対する現在数の増減これは  
市長部局の定数は二七人であるがそれに対して  
現在数は一一一知少ないとござります。

予算計上人員に対する現在数の増減これは予算  
計上人員は二七知計上したか現在予算計上人員  
よりハ現在おる数から一一知少ないはより一一知を採用  
したい。さういう意図で予算には現在数より一一知  
多く計上したとござります。

この増買の理由ヒソナースーは昨年から行われた  
国民年金事務のふえたことと国民年金の開設され



たこと 乗用車 広報車 トラック等、運転手これら  
の増賃を見込されてあることをごまびいます。

なお今度新規採用によりましてある程度臨時を  
解消できるのではなかと思っております。

そういう考えで二カ月の増を見込んで計上した。  
それから教育委員会で現在教員より二カ多く計上  
した。またこれに図書館、職員、一カ欠員に  
なっております。新に設けた指導主事一カを増員

した。たゞに二カ多く予算計上した理由をごまびいます。  
昭和五十年当初予算計上人件費調へてごまびいます。  
そこには一般会計と特別会計に大きく分けてまとめ  
たりしております。この一般会計について御説明申し  
上げます。新年度の人件費総額は予算総額に  
対する五五・八%に当るのではございます。昨年度は

三、大分をふいす。今年は今算総額におきまして  
 昨年度より大分四百二十七万余円の増におきたにも  
 おかわらず去年もほぼ同率、割合を占めてゐるという  
 ことは去年の一月一日に払買の件たるは是正という  
 りで給料の改正ありす。たゞと本年の三月に全面的  
 な給料の改正と特別払金買の報酬の増額これらが  
 ありす。たゞために人件費の占める割合は去年と  
 大差がないう。結果にたつたうでござります。  
 この報酬につきまゝは、議会費の報酬は議員之  
 三、四角の報酬をふいす。  
 次に市役所費が五十六万二千七百円。この報酬は  
 監査委員二名、公平委員二名、固定資産評価  
 審査委員三名、市の連絡員二名、合計三八名の  
 報酬をふいす。

次々市役所費、五十六万二千七百円、この報酬は  
監査委員一カ、公平委員三カ、固定資産評価審査  
委員三カ、市の建設員三カ、合計三八カ、報酬で  
おぼえます。

次々消防費、七十三万五千百円の報酬は消防委員の報酬  
消防団員合せて五十八人の報酬でおぼえます。

五款教育費の報酬七十四万六千五百円は教育委員

小中学校幼稚園の各校で九五カ、公民館の役員員

青年学級講師図書館合計三十五カ、報酬で

おぼえます。

社会及び労働施設費、六万五円は、これは保育園の

医療と市の福祉医一カ、報酬でおぼえます。

産業経済費、百八十五万五円、これは農業委員二五カ

農業協力員一四七カ、市産振興員三カ、合計

一、九四九、報酬でございます。

次の統計調査費三十五万六千円は農林統計調査費

一、二八九の報酬でございます。

二、軟選等費七万八千円は選挙管理委員四九の報酬でございます。

諸支出金十二万四千円は国定資産補助費大体、

人質として、ハミロツも採用するものでござ

います。それと新市町村建設審議会の委員

二〇九の報酬でございます。以上再報酬の合計

千七百五十四千三百円計上いたします。

次に私買贈付合計三三九の私買、給料を計上した

ものでございます。

次の扶養手当、これは配偶者六〇才以上の父母

祖父母一八才未満の子供弟妹それらに支給するもの

でございまして配偶者には大百円子供何人あつても一人にだけ大百円支給する。他の子供には四百円この扶養手当の人員は「甲」に該当する者三十四名「乙」に該当する者一四〇名合計五十八名に扶養手当を支給してゐるわけでございます。

次の超勤手当 これは私買給から二役の給料を除き了。私買給それに扶養手当これと合算したものが大なり。これは地方交付税の基準になるものでそれを超勤勤務手当に計上した。了。

次の期末手当 これは大月に支給する期末手当給料の百分の七十五と二日に支給する百分の百五十一を率で計上した。了。

勤奨手当これは大月に支給する分が百分の二五三月に支給する分が百分の五。これを計上した。了。

通勤手当 これは二十日以上のところから乗り物で通勤してゐる取資に支給する手当でございます。

これは一般会計でバスや汽車で八四知自転車通勤してゐる者は九。各会計一七四知 一人より最低百円から最高五百円で打ち切りでございます。

この合計 千五百八十三百四十円

次に恩給共済組合負担金 これは恩給組合に加入してゐますのでこの負担金預貯金、取資は市の負担金は給料の百分の一 本人の負担は百分の二でございます。市の方は百分十 本人は百分二 負担してゐるでございます。

それから共済組合の負担金 これは長期と短期というものがあつて 短期というものは恩給組合に入つてゐる取資の医療費、恩給を受けるために入つてゐる

組合でございませう。

長期というものは恩給組合に入らない払員つまり

五等級の払員でございませう。それとなお臨時でもって

長期にわたる臨時をへらうと入ってゐるものでこゝは

病氣をした場合等によつて組合から支給されるわけだ

でございます。なお長期の方は共済組合からやめた場合に

に年金がくる。また二年勤務した場合に共済年金

がくつわけでございます。その負担金は短期の方では

千分四五を市が負担し、赤本人は千分九十五長期の場合

は市の負担千分六十五、本人の負担金となお共済組合の

事務費としまして、年当り甲四百円、乙種四百八十円

その事務費をミミに計上したもうございませう。なお

恩給組合共済組合の事務の關係上どうしても

分離できない払員は市役所費の中の負担金の

中へまゝめて、納付してゐるものがあります。

その他、概で三つあります。こゝでは、宿日直手当、特殊勤

務手当、災害補償費、というものを計上した。

特に申し上げたいことは、取償の団体保険料であります。

市役所、取償費の中に六十二万六千四百八十円計上

計上した。――この内訳は、宿日直手当が二十九

万三千四百円、保険料が三十三万二千八百八十円であります。

この団体保険は、全国の市長会が主体となつてやつてゐる

ものであります。――全国都市、取償、生活安定と

共済制度強化のため、市慰金制度確立も目的と

するものであります。――取償が病氣または死しては

場合等、保険金があります。市慰金として、さういふ葬式

と費用とがあり、家族の生活基金、一部として

設まつたものであります。――全国一八市、六七二五一人加入



こゝ表は御参考までに昭和三五年年度の当初予算より  
人件費の比較としてここにまとめだしております。  
以上一般会計の人件費一億四千七十一万五千四百四十九  
円零について概略御説明申し上げました。ただ、この  
詳細につきましては質疑のときにお答えしたいと思つて  
おります。

官山行義

申—上げます。前年度と比較して三百四十万六千  
二百四十円増となっております。そのおもなものは

議員報酬で二百七万六千円 職員給与で十八万四千五百五十円 交際費で  
六万九千円 諸手当で九十八万四千五百五十円 交際費で  
十万円 このほかおもなものはございません。

次に旅費におつては 前年度と比較して三万の増で  
あります。これは普通旅費におつて一万円費用  
半償にあって二万円の増でございます。

次に常月費では四万九千九百円の増でございます。  
これは食糧費におつて三万円の増を見込ました  
ものが増々おまなるものでございます。

次に交際費におつては十万円増となっております。  
これは今年は今国関東千葉の各議会会役員  
というところで十万円の増を見込ました。

次に七目調査費これは新に項を目に変えたものでございまして昨年と同様でございます。

次に五一項オニ款市役所費についで申し上げます。前年度と比較した——す——て一十八万九千三百八十四円増となっております。

私貨館におして五百三十七万五千八百八十円諸手当におして百七十五万九千八百十円需用費におして

百七十三万四千五百円の増におもなうございします。

次に旅費におしては十万円の増でございます。これは三年度より支給してその額が一ヵ月十万円平均でございまして関係上一ヵ月十万円の支出額を予定して

百二十万計上したものでした。

次に需費費におしては百七十五万の増でございます。これらのおもなものは賃料金で九十九万五千円新に

設計されしに、保険料、三十三万二千八百八十円、  
おもなるものでございます。

五三有燃料費、百七十八万五千三百円となつてあり  
ます。この内、自動車燃料七十九万四千円

プロパンガス十八万円、暖房燃料費七十九万三千三百円

自動車積算を申します。と、乗用車一台、今月に

三〇〇リットル、車価四九万円、これが一ヶ月分十七万

四千七百円、この四分一、分です。から七十九万六千五百円

これと、原付自転車、七台でございます。七台で一カ月に

一八〇リットル、車価四十一万七千三百八十円、これが一ヶ月

分、八万八千五百六十円、合計七十九万四千四百六十円、

次にプロパンガス代金十八万円、ついでには、月トキニ〇〇千

一、千七百七十五円、一カ月一万五千円、これが一ヶ月分

十八万円でございます。

次に暖房用石炭についで申し上げます。

一日大体トシで単価七千八百円これより一日分を予定  
ソレよりトシで七千八百円　これとさらに石油ストーブの  
あるとこれの燃料を計上する。これを八月  
それから普通室の木炭の俵　単価四百二十円で  
四千五百円　合計七十九万二千五百円となっております。  
次に五五負監査費についで申し上げます。

三三節員担金補助及交付金のうち監査委員  
協賛会員担金十一万八千円計上する。また  
これは本年監査委員協賛会の館山市で開  
催催されるのでその費用も計上する。また

副議長(黒川佐太郎君)暫時休憩する。――

一時〇七分　休憩

一、一時二〇分

再開

副議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。  
市税課長（前木哲三君）任氏、登録等事務費にフソク  
申し上げます。前年幾より十八万三千三百五十円の  
増でござります。この主たるものは賃金で十五万二千  
九百円、端のどで八万五千円。これは今年度予算額用  
のタイプライターを購入する予定でござります。

印刷製本費は十萬円の減になっております。

総務課長（山口実君）五八頁、登録費について御説明さ  
します。三三節庁舎修繕料四万円計上いたしました  
これは二万円の増でござります。

次に五九頁諸費、二百万七千五百円計上いたしました。

これは委託料百二十五万円をたるものござります。

次に天ノ有消防費について申し上げます。

消防費として三千七百九十九万九千三百七十円計上いたし、  
すして千五百九十四万三千九百九十円増となつております。

これは六七年度四項消防庁舎建設工事費の千五百三十万  
五千円増のをたるもうかゞざります。

あとは大体昨年と同様でござります。

建設課長(新井重助君)才四款土木費について御説明し

たします。総額三千五百八十七万八千五百九十九円計上いたしま

した。これは前年度に比して千六百六十二万八千五百九十九円増

となつております。昨年もでは都市計画才五款と

して計上してござります。県の指示によりまして

土木費の中に含めるという事で本年は土木費の中に入

れましてためにこれだけ増となつております。

今日道路の現況を申し上げます。道路全長の四〇。キロ

はかりがたいです。その中に砂利道の三九六ヤロ、二五五ヤロ、  
すてに舗装済みのもは五七〇メートルあります。して  
全長に対して約一八〇の舗装率であります。  
これを三年に比較すると舗装に二六————と四二〇〇  
メートルはかり多くなっております。

なお橋梁でもありますが、総計二五橋あります。  
うち木橋が八橋、永久橋が四六であります。

これを三年に比較しますとコンクリートの永久橋になり  
ました。は五橋、毎年二橋ずつ改良してあります。  
从今もう一、二回改良にとりて参りたいと考えて  
おります。一、二回、道路橋梁費におさすとして

維持修繕で八百七十九万五千円、合計上は——  
て、この万金も期したと考えております。本年度  
一五八万余円減つて、そのうちに組んでおります。これは



昨年度は四百五十万で自動車とローラーを購入したの  
でそれを差引すると、実質的に二百六十万の増と  
なっております。又、維持補修を完全に行なうと  
ともに先ほども申し上げたように舗装も一年間のハローム  
あまりを増加してございます。又、簡易な措置を本年度  
におきまして試験的にやってみたところ、かううに考えております  
それはコルタールを使用したので舗装するわけで  
す。厚みが一センチから一センチ半程度のものでございませ  
う。一平方メートルに五十五円見当でございする勘定で  
ございします。ローラーを買つてありますので、交通量の中  
程のところをやりたいと考えて予算を計上しました。これは  
試験的でございします。又、資金、原材料の方面に、その分  
かに材料費を見込んでおります。節約があらなもので  
を申し上げます。資金は約四百七十五万円、これは自動車

の上乗り補修用、人夫あるいは舗装、枕元人夫を五、六人分見込みする。

有純品十四万八千円は自動車、クレーン、購入その他  
有純品を購入したと考えており、

燃料費ハ十六万一千円は自動車ローンを運転月の  
ガソリンでマブいます。

三三節修繕料四十八万円 これは自動車とヒーラー、修繕料を見込んでおきます

工事請負費五萬七千円、これは市道の側溝整備、舗装工事の修理費と、ともに橋梁の修理費の特別に橋は、少しでも左の通行が不可能になると、これを懸念した、そこでこの修繕に重きをおき、

本年度は七橋を補修かけ変えるつもりで、おこなう。なお一橋はエナリートにたいして考えてあります。

次、備品の三九百八千円は試験的舗装を完了するに  
乳着をあたりをはきでまぶすもの、これを買ったのと考  
えております。

次に原材料百十六万一千円、これは補修用のセメント砂利  
舗装用、碎石、これは果外、碎石でまぶします。  
それから試験舗装用の乳着を買ったのと考えて  
計上したものといた。

保険料は以上使います。労働者、労災健康保険  
失業保険、保険料でまぶします。

次に新設改築費で百一十数万、二四節、工事請負費  
が大方あります。これは大正神奈川の道路の  
三年度で全通した、その神奈川に、その橋の  
まぶします。これは幅が二メートル九〇センチ、  
自動車の通行の困難なりで、これを四メートルに広

中々現在そのイキナリでござりまするが、これをエナリートの  
の鉄脚を用います。幅を拡張するつもりでござりまする。  
次の負担金二十五万円これは道路橋梁改良工事負担金  
でござりまする。昨年度と同額を見込ました。

三項河川港灣費これは昨年度に比して百一十万円より  
増額になつております。米水二目の新設改築費の  
項港修築の費用が多くなつた関係でござりまする。  
一目維持修繕料五十五万三千円これは河川港灣  
施設管理費として計上してござりまする。この工事

預負費にあつては二十五万これは館の那方北条の

棧橋等を整備してござりますると思ひ計上した。た。

二目の新設改築費八百九十五万これは館の港の修築

工事九百万円この割合負担金となつて二百七十五万円

船修修築工事の二千三百万円この負担金

二割五分で五百七十五万 富崎港の整備費として  
百万円 これの五割の負担で五十万合計八百九十五万円を  
計上したい。

第五項 水道費についてです。本年は二百二十五万九千円  
あまり計上したいとして昨年より九万円ばかりふえて  
おります。それから市営水道はこれも拡張したいと考  
えております。貯蔵量に制約されておりますので  
あまり増加を望みないという現在でございます。

現在、給水状況については、給水家屋の三八倍におよ  
びます。その人口は二七〇におよび、本年は、  
市営住宅の増設されますので、これも合算して  
給水したいです。年間給水量は約二〇万トン見当を  
おさえてやっております。

需要消費で九十八万四千六百円 これは賃金十二万六千円

施設の清掃人あるのは現役用の砂を洗う人大賃で  
なおります。有線電話三十五万六千五百円、これは塩素その他  
試験的に使います。薬品でございます。燃料費  
三万七千五百円は停電の場合に市庁に使います。アルミ  
の費用でございます。

先熱水費三十万は電燈の使用料で一月二万五千円  
程度分かります。三月計上してございます。  
あとは去年通りでございます。省路でございます。  
次に街燈費です。本年度五十四万三千五百円計上した  
でございます。

市内にございます街燈は七〇灯ありまして、今年には  
平久里川に架設します。館山大橋これに四〇ノット  
の電燈を三個、美灯三つ、省路を計上した  
でございます。昨年に比して四万五千円ふえております。

七項調査費三十八万三千三百円これは土木全般にわたります。そのうち調査を行なうておりますのは本年は特に道路整備その他について調査をやつてみたのを考えております。そのための費用を各節に計上いたしました。うが御了承のほどをお願いいたします。

八項、築造物管理費三十三万四千四百円は道路橋梁等の壊れたとかそういう場合に必要と思われるです。人夫賃を計上し必要な原材料費等をここに計上しております。うが各節は付記にもう御了承のほどをお願いいたします。

九項都市計画街路事業費として今年は一千万円計上いたしました。事業は昭和二十七年以来施行して参つたもので、本年は昭和市内の道路幅二メートル拡張いたしました。これによりまして全線四四〇メートル

の補通することになるわけでございます。

全線が補通に伴って交通量の必然的に増加するものと考えられますが、これのために損傷が著しいものは補修を当然やらなければならぬ現状でございますが、この補修にも多額の経費を要しますので、北条地区内より舗装をやつてみたいと考えております。舗装については市農果当局に要望したもので、建設省にお願いたして本年度工事に着く予定でございますが、何となく——これも舗装は初年度でございまして、予想通り、予算がつかないか、今やとちわりまして、一千万の線でもこれに計上したい。まして、この実現に努力した——またいと考えております。吏員がこれに事業費に對して、四七%の事務費を計上してあげて、ということでもございしますので、一四四、七%





ハ。メートル舗装を——して金銀の南通をみることに  
なっております。目水路改良工事費と——しては  
七十五万三百円これは新井地区内にございまして排水路の  
非常に起伏が多くて排水の困難でございまして

また非常に臭気を放つものは田に流れ込んで耕作者  
に迷惑をかける箱のひき取りと——うことでございまして  
今年度七十五万をもちまして——メートルの改良を

——たいと考えましてここに計上した次第でござ  
います。

次の公園整備費でございまして、今年度は百十萬計上  
した——た工事請負費でございましてこれは

城山公園にございまして暗渠でございまして、これの十分  
排水のひき取りとこの修理を行いたいと思っております。

三、節負担金で百万円は北条海老を維持したいと思

また、整備をたいたいと考えております。この  
整備は県の都市計画課において計画されまして、その  
負担金を市の収入という形態になっておりまして、市の希望  
に基づき、いろいろな海岸公園を作りたいと考えて  
今年はお百万円位の予算を立てまして、その半分の百万円  
をここに計上したものであります。

工事はいろいろありまして、今と現在、道路に沿って  
クリーシバルトを作りまして、遊歩道路、そういうものを  
作る計画でおります。

次に公園管理費でございますが、これは昨年度と同じ  
程度のものをしております。これを付託により、御了承願  
い。次に二七頁、八款三項、公園住宅建設費について御説  
明申し上げます。

今年度八百三万円計上した。比年比は十三

万月で減っております。これは昨年は一種二種という  
ものが計画でやりました。本年は二種を主にいたしまして  
前年より的一坪ふえて九坪五合位にならうと思っております。  
これを二戸建てしまして、館山市の住宅を緩和に努め  
たいと考えております。二目需用費でございますが、  
これもやはり事業費と三、五の事務費として見込んで  
おります。これの補助金でございますが、二種住宅の  
場合、その五分の補助金になっております。  
事務費につき五分の補助金でございます。補助金  
三百十八万五千円を見込んで、歳入の方に計上して  
おります。

次に四項、事業対策費につき申し上げます。  
事業対策事業は、事業者に働く場所を確保する  
の安定をはかるというところであり、労力を用いて市道を

改良たし産業の発展と道路整備に努めたいと考  
えております。

本年度施行たしより予定として、八幡海岸線  
の八幡地先、八幡神社角からヘルス・センターまでの  
間、四五メートルの道路をメートルから一メートル  
の幅に改良するものごをしております。

それから、鶴山環境線、鶴山港港に入りまして、もうご

本年度は、一メートルの幅、メートルの幅、メートル  
舗装をやつてきたい、それから大井、神奈線、ご

ます。これは、国道から分れます、ご、真野の大島線に参

る道路で、本年三メートル幅、四メートルに改良したい

もう一つは、大井、畑線、山、秋、これの土地、ご、整理を農林

課の方でやっております、ご、一応、ご、整理内の土地は

確保してございまして、ご、本年度四〇〇メートル幅、メートル

一 飯山市議会

に改良したいというものがござります。その他市内全般にわたりまして一〇〇メートル位の補修をやる予定でござります。これによりまして年間五五五人の延入費を使います。改良してまいくという考えでござります。

工事費その他事務費につきましては必要な経費と各節に配分してござります。省略していただきます。以上土木費につきまして説明を終ります。

・副議長(島村佐太郎君) 暫時休憩いたします。

一 一時五五分 休憩

一 一時五五分 再開

。副議長（黒川佐太郎君）

午後の出席議員数 三二名

休憩前に引当議案の会議を開きます。

第五款 教育費

。庶務課長（橋沢貫覚君）

第五款 教育費について御説明いたします。

本年度七千九百八万三千八百八十円を計上いたしております。

委員報酬吏員給諸手当これは人件費で現員

現給で計上してございますので説明を省略いたし

ます。需用費で五万六千六百六十円増になっております。

かこれと昨年と大差がございます。ただ三二節の

員租金補助及び交付金の人件費関係で増額に

なっております。他の費用については大差ござい

ません。六項の学技教育指導費でございますか

今年度ハ十五万五千二百円昨年比でまゝ三十四万六千二百円  
という増額に成つております。これは本年度指導行政  
に力を注ぎたいという計画でございます。

二節の吏員給におきまして新しく指導主事を採用  
いたしまして指導員の充實をはかりたいというもので  
ございます。

五節の職員手当の特殊勤務手当十分二千五百円  
計上してございまして、これは指導主事のほかに  
教員の身分関係で業務指導主事を置きたいとい  
うのでこの分が十二万円、強化指導員手当とい  
まして一人年二千円、小学校の教員を八人、中学校の  
教員一〇人を委嘱いたしまして一八人で三万六千円  
教科書選抜委員を一教科三人ずつ小中学校で  
十七教科五三人分一人五百円といまして。



二万六千円合計して十八万二千五百円計上いたしました。  
二節委託料で十万円を計上いたしました。これは昨年  
に比して四万円の増であります。長期研究委託料と  
いたしまして三万円、一校五千円、六校分を予定  
いたしました。教育課税改訂研究委託料として  
五万円、これは小中学校一七教科一教科三千円、六つで  
五万円、労力向上対策研究委託料一万円、特殊教育  
研究委託料として一万円、これは本年度新しく  
設けた費用でございます。これによってやはり指導  
行政の充ちをばかろうというものでございます。  
原材料費は、ここにのべてありますものの材料費でござい  
ますので説明を省略いたします。

交際費は前年と同額でございます。

財産管理費におきまして三十万減額いたしました。

これは三三節の保険料、学校その他教育関係の  
 建物の火災保険料、これが全部で七〇〇〇坪あまり  
 掛けておられたのでございますが、このうち七〇〇〇坪  
 ばかりは保険会社の契約で、その他は共済会の契約で  
 ござります。それを本年度は全部共済会に切り  
 換えて契約したいというのでござります。

普通の保険会社では料率が百円に對して三百五十銭  
 から六百十銭というふうになっておりますが、  
 共済会ではこれが一月九十銭でござります。そのため  
 契約金が少くなりますので三十万円を減額いたした  
 わけでござります。

小学校費において千六百三十七万五千三百円計上いたしまして  
 昨年に比して四百萬四千四百十円の増でござります。

小学校は三三年度におきまして七十九人、三五年に比して

まゝして児童数五三〇人減となります。

学級数において一ニ学級の減を来たることにあります。  
人件費は各学校、校医、歯科医、これの報酬、

職員給諸君等は、お使いの人件費でございます。

需用費は昨年に比して百五万九千九百円の増となっております。  
おありですか、昨年度の需用費では児童一人当たり平均  
九百十二円となっております。本年度はこれより

百六十五円増の千九百十四円となっております。

この中の賃金で六十五万二千四百円計上しておりますが

昨年は給食の人員が六人でございまして、館山小学校  
の給食婦はP・T・Aで雇用している給食婦で

ございます。これは今回地方財政法の改正によりまして

佐氏に負担をまゝしては行かない、というふうに指定

されてございますので、これを市の方に吸収したわけ

でございます。そのために二十九万四千四百円の増ということになっております。

消耗品におきまして教科書及び指導書購入費として三十万計上いたしておりますがこれは教科書が全部新しくなりますために要する指導書の経費でございます。三二節の負担金補助及び交付金で十五万三千八百円。これは日本学校安全会の共済掛金でございます。これは新しい費目でございます。七十九人の一人二十円の掛金でございます。

扶助費におきまして百五万二千三百円。昨年に比べまして五十八万二千円あまりの増額を計上いたしております。これは準必要保護児童の経費の増額それから今度学用品扶助費三十四万七千七百円、通学費

扶助費四万八千円というものが新しく補助の対象  
になりまゝしたので、これを市費で計上いたした  
わけでございます。学用品一人当り千五百五十円の  
二七〇人分、通学扶助費一人二千九百五十円の一五人分  
これは通学距離が四キロ以上の準要保護児童に  
適用されます。

営繕費において四百四十九万七千円、昨年度に比ベオ一  
二百五十四万五千円の増でございます。これは二四節の  
工事請負費で三百二十八万円、東小学校の構堂改築  
費として二百六十万、屋根ふきかえ工事費として六十八万  
を計上いたしまして、これの詳しい説明は説明書  
の方にしておりますので省略いたします。

四項中学校費におきまして二千三百六十八万八千八百円  
を計上いたしまして、中学校におきましては全国的に

生徒増を来比しております。館山市におきまして  
前年に比べまして一〇学級六四二人の増となっております。  
まず、人件費につきまして説明を省略させて  
いただきます。需要費において千八十万三千五百円。  
昨年に比べまして二百八万三千二十円増となっております。  
今年度は百四十四円増と成って二千二百二十七円と成って  
おります。

消耗品費におきまして百七十四千円。前年に  
比べまして四十六万六千四百円増額を計上いたしております。  
備品費におきまして六百三十九万九千円。この中で  
生徒の増費分百二十七万九千円。理科設備費として  
五十万。理科家庭科設備費二百萬計上いたした  
わけでございます。合計備品費で七十八万円の増と  
なっております。五二節の負担金補助及び交付金

は小學校費と同様に新しい費目でございます。四八五〇人の二十四万七千円でございます。

扶助費におきまして前年と比べて六十五万四千二百円の増になっております。このうち学用品、通学扶助はやはり新しい費目でございます。

中学の場合学用品は二千円割り一七八人分、通学扶助は一人五千六百四十六円の一人分を計上いたしております。中学では通学距離が六キロ以上になる児童保護児童が対象となるわけでございます。

営繕費におきまして千五百二十二万二千円計上いたしております。昨年に比して三百六十一万三千五百円の増でございます。この中の旅費のうち平数料まで工事請負費に關する事務費の關係でございます。工事請負費におきまして生徒急増によります。

建設費として、中の校舎増築四教室、それから  
西岬中学校の屋内体操場新設工事費として  
一〇〇坪、三百五十万円、やはり生徒急増によるもの  
として、増築工事費は三学級で二百五十万円計上  
いたしております。これの詳しい説明は説明書の方に  
書いておりますので御覧願いたいと思っております。  
高等学校費におきまして、千五百六十万五千四百円  
前年に比して二百四十二万八千六百円の増と成つて  
おります。この増のなされるものは、大体人件費の  
ベース・アップによるものでございます。

人件費は省略いたしまして、需用費におきまして  
二百五十万四千八百円、五十万五千五百円の増でござい  
ます。これは三二節の学校安全共済会の掛金、それから  
人件費関係の増、そういうものが主なるものでございます。



営繕費で二十六万内計上いたしましてこれに工事  
請負費の二十万内屋根工事の元工事費として計上  
いたしまして、次に六項幼稚園費で八百九十九万四千三百内  
昨年と比べてまして百五十八万八千八百七十内増でござい  
ます。これも高等学校同様大体が人件費の増目に  
よるものでございます。

需用費におきまして昨年と比べて十七万九千五百内  
の増でございますが、これも三二節の人件費の増が  
主たるもので、その他も若干は前年と同様なるもの  
を計上いたしております。七項公民館費  
七十二万五千二百内計上いたしまして、昨年と比べて八万  
六千五百七十内の増になっております。これも報酬  
関係の増額でございまして本年度新しい事業と  
いうものもございまして。

婦人会館費で十五万円昨年より二万八千五百六十円の増となつておりますが、この十五万円は三年度の歳入婦人会館の使用料で十五万円程度入っておりますのでこれを財源といひまして独立採算制の運用でこの十五万円をもつて運営費に充てたわけでございます。この中で工事諸員費で四万円計上いたしておりますがこれは二階の現在林の間として使つております。六畳を少し室が狭いので一坪半ばかりふげようというものでございます。

八項の青年学級費で八十五万五千五百円計上いたしておりますが、これは昨年に比べて三万五千六十円減となっております。青年学級費も大体昨年を踏襲いたしまして今年度別に新しいものはありませんので省略いたします。九項図書館費において

七十一万五千四百八十円、前年と比べて六十四万五千八百八十  
円の増となっております。これは現在図書館は県の  
分館にたっており、その中で県の職員が一人、司書  
おり、また市の職員として、昨年一人やめ、それ  
のために現在職員がおりません。今年度、司書を  
一人採用しようというもので、ここに十五万四千八百円  
計上いたしました。

需用費におきまして、十四万五千六百八十円の増となつ  
ておりますが、これは昨年の五月に、~~新~~駅前の図書館  
を分館の現在の図書館に越え、それのために、それに  
必要経費を計上したわけでございます。

一。項の社会教育費で九十七万百円、昨年に比べて、ま  
ず六万二千六百円の増となっております。これは、青少年  
健全育成費といたしまして計上いたしました。

昨年から青少年健全育成という問題が大きく社会教育で取り上げられているものでございます。

本年度果の方からその半分十五万円の補助を予定いたしましてこの二十六万円で青少年健全育成の運動を展開していこうというものでございます。二項体育費で七十五万九千九百円前年に比べて五万余円の増となっておりますが体育費でもとりなれて説明する方が多いものはございませぬ。

ただ二五節備品費で九万四千計をいれたいところだがこれはプールの水を換えるとき水道だけで足りませんのでいつもポンプを使って井戸から汲んでおるわけでございますがその揚水ポンプを本年度おいて下げてきて市の備品にしたいというものでございます。以上で教育費の説明を終ります。

福祉事務所長（長谷川弘治君）

六款社会及び労働施設費の福祉事務所の所管にかかわる予算について申し上げます。

総額五千四百五十四万五千五百十円の予算額でございます。うち生活保護費として三千六百三万余円を計上いたしました。これは昨年に比して二六%の増額を見込んでおられます。

月におおきくして一四二五円、世帯として三五〇世帯の人数を保護していただきたい。もう一つ予定でございます。金額として月額三百万円でございます。

それ以外の内容は附記によって御了承願いたいと思います。次に二項民生委員費として昨年と同額三千五万計上いたしました。これは市の福祉協議会に付託いたしました。民生委員関係六六名の一切の

業務の運営をやかたていたたく、いろいろ計画でござい  
ます。三項の見童福祉費六百二十七万四千八百円ばかりで  
昨年より約七十万増となっております。

これは見童措置費の増が主なるものでござい  
ます。需用費の中には例年実施しております一日里親  
行事、子供の日の行事、働く少年激励、この三つの  
行事を大体六万二千円を計上して、それとあわせて  
計上して各節に分割をしております。他の経費はつ  
まみれては例年の維持修繕の程度で  
ございまして、省略しております。

三項の見童措置費六百十八万七千四百円の計上で  
ございまして、昨年と比べて大幅に増額をいたして  
おります。ものは法律が改正されまして基準が上った  
ためでございまして、これによりまして私達の七月に對し

して五四人延人員に對し、一ヶ月に六五五〇人ばかりになり  
ます。この子供さん、それ、それ保育所におあずけを  
いたしたい。なお歳入になります。この経費に關連いた  
いますので説明いたします。月謝の關係でございますか  
これは現在まで生活保護を受けております者は、だ  
母子家庭、百円、市民権のうち均等割を納めてあり  
ます。家庭を三百五十円、四百五十円の二に分けてあり  
ます。四百五十円の方は割合、固定資産などの多い  
家庭の子供でございます。それから金額を負担する  
子供、こういう四段階に分けておいたのですが、今年度  
は、なり、なりとこの規定が改正され、一、二百円の  
子供が現出する、こういう案でございますか。まだ國の方  
で法律、改正がはつきりいたしませんので、大体そういう  
予想をもっており、次が四項、これも四百四十万七千円

ばかりで六十七万六千円ばかり増額されております。

このおむねものは人件費を除きまして需用費に

三十一万六千円ばかり増額されております。保育所費

におきまして国の定めております補助の限度内に

おきましてその小むね小むねワケが設けられております

のでその小を各節に計上いたしております。これは

公立の保育園三つ、九重保育園が六〇人、館野保育園

定員六〇、純真保育園定員一五〇名、合計二七〇名

に對する一カ年の経費でございます。需用費の

増額は食糧費として二十二万六千円、<sup>燃料費</sup>原料費として

五十六万九千七百円、その小が主なものでございます。

保育所においては一日三日の間食費と八円十銭で

給食を実施しておりますために増額をいたした分

でございます。今までは食糧費一本で出ておりました。



すか、節の区分を違えて参る場合がござりまするので  
二本立てにいたしました。あとはそれ以外の最低  
費用を各節に分けて計上しておりますので、省略  
させていただきます。

第五項 身体障害者援護費として六万二千四百計上いた  
しました。これは減額四万四千円ということになってあり  
ますか。大体利子利息等を交付いたしますものの  
数が減税を以て参りまいるのでこの位の費用でや  
ります。こういう予定で減額をいたしました。六項  
戦傷病者等援護費三万三千七百円を計上いたしました  
これは昨年通りの予算額でございますが、戦年に  
よりまして傷害を受けた者は法律によりまして  
その数も戦後一五年もたりますので大体限定を  
されて参っておりますので、これも昨年同様でやれる

ということでした。

七項精神薄弱者援護費四万一千円の手算額  
 ですが、これは昨年法律が交付になりました精神薄弱  
 弱者援護法に基きまして支拂でございします。大きな  
 金額としては三三節委託料として三万圓計上いたし  
 ました。これは市内に精薄児と申しますか、相当  
 おるわけでございします。この所遇関係について  
 教育委員会と連絡いたしまして二人の先生に一年  
 研究をいたしていただきました。その結果に基いて精薄の  
 施設を考えていく。こういう予定で五万圓を計上  
 いたしました。八項福祉事務所費四百十二万三千二百  
 五十四円。七十万四千六百六十円の増になっております。人件費  
 を除きますと若干の減額を計っております。通用品費  
 各部に福祉事務所として一年間に消耗いたします。

事務のいろいろの器材等の最低額を計上いたして  
おりますので附記によつて御了承願います。九項  
福祉事業費新事業諸費に八万九千七百七十五円の増額で  
五十四万六千五百円計上いたしました。これは行事として  
各小学校の運動会に合せて行います。敬老会この  
費用と市の養老年金八十九才以上の方に差し支わす  
年額千二百円の額が大部分でございます。敬老会に  
招待人員が二二〇〇人を予定しております。養老年金か  
年にもらう人と申しますか受給権者がふえており  
まして三六年度一八〇人を予定しております。あと  
大々金額は五二節にあります。市の福祉協議会  
に対する二十万円。これは市の福祉協議会三十五年度  
予算とる百八十万と推定いたしております。一割程度  
のものを助成いたします。それから市の福祉協議会

加民生金庫の業務を委託しておりますので事務員として二万月合計二十万程度を助成したいと考え、計上いたしました。

次に住宅管理費において十萬二千八百円計上いたしました。これは三三年度にのりますと市営住宅が四〇戸、県営の住宅で和どもが委託を受けて管理してあります。加三〇戸厚生寮が二棟、これは長屋式になっておりますので室数としては四三室でございます。これだけの住宅を管理していただきます年間、経費的、維持費でございます。して昨年度と大差ございませんので説明を省略させていただきます。

二項災害救助費、これは存目程度でございますので省略いたします。

國民年金事務取扱費、今年度二百五十一萬三千



以上でございませう。

厚生課長(甲藤幸太郎君)一、頁一五項厚生援護費でござい  
ます。が約四十万円増額でございまして、これの主なも  
のといつて、それは昨年当初に計上いたしまして、ま  
る慰霊祭の諸を費す計上も、ものでございませう。

一、二頁七款保健衛生費でございませう。本年の予算  
額四千万あり、昨年に比べ三千五百万円余の増で  
ございませう。これについては、後ほど説明いたしま  
すが、尿管化槽の建設が中心でございませう。

まず第一項の奨励費は三万五千円、増額、これは  
昨年は計上いたしまして、と保健所の後援会の  
負担金と計上いたしまして、

二項、子供接産費は昨年に同額でございませう。

三項、伝染病予防費六万一千八百円の増でございませう。

がこの主なるものは備品費にミストファニ二台の購入  
費六万円計と一にしております。これはガスターの  
もう一つ軽便なものというところで予防の強化とほ  
か、で参りまいと考えております。

四項隔離病舎費も大体全常的を費でござります。  
ので費零とさせていたります。

次、結核予防費でござります。下で昨年に比べまして  
五万五千円の増でござります。これは毎年結核検診  
を行つておりますけれども毎年に受診者の数が増え  
て参りますので薬品委託料その他多少増額計と  
いたしてわけをござります。

六項火葬場費十一万円あまりの増でござります。が  
その主なものは修理費で八万円余。その他は全常的  
な費でござりますので記によつて御了承願います。

次の狂犬病予防費五万八千円余の増でございますが、このうち、まゝといふことは昨年から狂犬病予防費の中に資金の臨時用人料が入つております。こればかり今年に入つております。その他は例年通りでございます。

八項の環境衛生費二百三十五万余の増額は、いわゆる環境衛生の殺虫剤の斡旋でございますが、昨年から当初予算に計上されたものが、本年は二百万円計といふことで、薬品の斡旋に伴います。環境衛生費へ充てられたいといふことでございます。

この向題につきましては、市役所費を補助して四分の三費用を徴収するというふうに考へております。

次の九項消毒所費は例年通りでございますので



付託により仰了承願いたします。

オ一、項清掃費で七十八万余の増額でございますが、  
主なものといつて、まして九箇賃金で作業員賃と料  
大休一日五十円程おこす際エグてやりたい、五十円  
以内へ増額下見とみまして計としております。  
あとの費目はそれ——通常の冬費でございますので  
付託によつて仰了承願いたします。

一、項し承処理建設費は新しいものとしてこれにつ  
きましては昨日も一衣御説以申しさうござい、たが概畧  
についてこの機会に申しさう致します。

本年お金の総工費三千百九十二万四千円計としたり  
けでございます。このうち直接工事に関係する  
まする費は二千八百七十四万四千円とおさへして  
てあとはそれに所屬いたります。すすは帯工事でございます。

ます。その内訳といつて、整地費九十三万円  
土地買収費七十五万円補償として十万事務費と  
して百三十四万。その他工事の需用費として七万、付  
帯工事合計三百十八万。それに先ほど申しました  
工事費下それらの費目に計入したものでござ  
います。あとは付託で御了承願いたいと思ひます。  
副議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

一時五五分休憩

二時十五分再開

副議長(黒川佐太郎君)休憩前に引続き会議と申します。  
農産統計課長(吉田耕一君)産業経済課長について申しあげ  
ます。

一項農業委員会費でございますが三十万余の増額  
になり、てふうするが主に人件費と需用費関係につ  
き、これは委員会運営上の必要を經費下計といつ  
て次方でございます。

二項農林費一目生産対策費が九万五千円余の減  
となつております。これは理由は従来実績として  
大米の売上、穀類並に完納税をやつておつた  
わけでございますが今主その必要もないと考へて  
今年主廃止したので減の御田であります。

三、節減委託料付託のところ御訂正願います。  
主要農作物採取の取種に御訂正願ひたいと思ひま  
す。三、節減指令補助及び交付金でございますがこれは  
現年主果の動力耕耘機の大会と本市で行なつた  
関係大主主は果大会と本市にもつてないという考

之方で五万用を削つたわけでございます。九万五千  
余用の減下みた次第でございます。

次に二目病虫害防除費でございます。消費品費  
におきまして百一万用を計えてわけでございます。  
これは水稻の防除薬剤費ホリドール粉剤等下  
購入いりまして防除につとめる。これは人間の法  
定伝染病と同じように果の規定によりまして  
実施することになります。従いましてこの費  
用の四分の一は市費で支出いたす。このように  
考へてあるわけでございます。なお土壌線虫の  
防除費用として四十二万用を計へた。これは昨年  
初めて本市において実施いたす。同の助成をあ  
おきましてこの防除の完全下期したいと考へる次第  
でございます。なお松食虫の九千用を計へし。

かくの防除に對しては國、果等かうヤシの助成  
とあるが、これに對して、現に市費を助成して、これに  
出の防除を期して、これと考えております。

次に三目園芸振興費で四十二万二千余円を増額して  
して、その理由は、振興費にあつて、果樹の増殖  
振興費でございまして、昨年へは果樹の林野の南  
部等と実績として、これに集同個人南部

等を奨励して、これに南部面積として大休集同四  
町歩個人として町歩程を認め、これに對して、これに對す  
る反り三千円程を助成して、これに果樹園の造成  
に努めたいと考えてある次第でございまして。

なお三三節の園芸の振興地の設定事業の補助金で、こ  
れは三千八百一十円計として、これに果の指定事  
業費の補助規則の基として、これに半額が果かう

参りましたので市も同額補助いたしまして特産品  
の培養に努めたいと考え計上した次第でございます  
す。その他栽培補助金でございますが三五年交  
にありまして試作というところで九重地区に大体  
三反歩へいぐさの試作も実施したわけで果ある  
いは普及地の指導等によりまして実施した結果  
をゆめてよい結果を生んでわけでございます。  
農産物等にも製品として出ておるわけでござい  
ます。本年おきおる一層研究するところというこ  
とがうございまして。特産園芸品として将来  
のびていくものもまた数種も得るものと通考  
してまいりたいと考えて補助金を計上した次第で  
ございます。

次に<sup>高</sup>産物奨励費でございますが十五万九千余円

へ増ひてゐます。その理由といふことは、  
産へ振込を付かるためにどうしても乳価の安定が  
重要問題であるという考え方が、乳価の  
安定策に必要な面では三五年来に於いて新農村事  
業で果の審議会を通じて、  
農業組合というふうなものを設置し、  
牛乳の一元集価、現在は一元販売をいふすが  
将来は一元集価一元販売という線にも、  
市場下建設、次策をいふ。従つて  
その最初の一歩、時代へ程々の援助を願  
ひ、このように考へて計る、次策でい  
ふ。

次に農業振興費で十三万七千六百円の増ひをい  
ふ。この主な理由といふことは、三三節負担

一 岡山市議會

金補助及び交付金のうち砂防組合の補助でございます。  
おいます。従来砂防の組合につきましてもは多少の  
援助も、このためでございますがこの面積の  
拡大と云ふその保護する事業につきましての事業  
費森林組合等の負担金いろいろ全費の負担金も加  
わって参ります。この組合の将来が全費だけでは到底  
まかざるまいという現状でございます。特に本  
市は平砂浦へあの膨大な砂防林の保護ということと  
か一大決心も、このためでございますので本年  
この種々の助成をいろいろ考えて計るに  
わけでございます。

その後は振興と必要は全費で計るに次第です。  
大の調査費でございますがこれにつきましてもは大  
体昨年と同様でございますので付記に御了承



いへるまいと思っております。

次第三項土地改良費の農地整備費、従来土地改良費として一本でござつたのですが、以下農地整備と林野整備に分けまして今年迄実施いたしたいと考へて二つに分け、次第でござります。二六節までは昨年と大差ございませぬ。

三六節負担金補助及び交付金で農地整備事業補助として二百三十九万二千円と計上いたした。内訳は予算説明書によつて御了承願います。次に林野整備費でござります。これは今年迄初めが目下作つたわけでござります。大体林野関係の整備下はありまして林野資源の振興開発下として参りたいと考へて計上いたした。

次に調査費でござります。四十二万余円計上いたした。

子一に 大休：う一に 振興計画に建てる上に必要  
 な全費を合せまして委託料の三十三万円でございます  
 ます。これは地形測量を一回と考えて北全の  
 一部を布留庵に不正不合法を本年交一六〇所分  
 の地形測量を実施いたします。いつでも土地の企  
 画整備というものができ得る態勢にまで順備  
 してあると考えてあります。

四項小団地開発整備事業でございますがこれは本  
 年主実施しない見込みでございます。で存目程  
 外に計五回あります。

五項一般林道開発事業は小団地事業と整備  
 事業と合せて実施する事業であります。がま  
 だは、きりきりした線がでません。で決定後に実  
 施する段階が参ります。とらやる考えて存目程交

計エーに次第でございます。

一四九頁一口款統計調査費でございます。が四万七千  
余円。減でございます。従って昨年実施した  
国勢調査のようは大きな事業もございせん。  
市へ統計調査に必要な経費を計上いたしてござい  
るでけに御了承願います。

・商工水産課長(羽山 房雄 君)第六項商工費で本年五十四十三  
万二千九百二十円。増でございます。

増額の主なものといたしましては三三節の委託料で  
商工祭の委託費として五万計といたしてござい

ます。三三節負担金補助及び交付金のうち小規模事業  
改善普及員五丁万円の額は新規に計上いたわりで  
ございす。昨年六月に施行にかりました商工会  
の組織等に関する法律これに基きまして各営



へで除きまして

八項親元費本年交四十四万九千余月の増で  
ございまして、九節賃金におきまして二十九万二千  
五百円と計よりまして、その内訳は三年交にお  
いて十人臨時用人を雇ひたのですが、今年は更に  
六名追加いまして、清掃に五名監視人といて  
八名船による監視人三名合計一六名の賃金と計し  
て、いりまして、三節修繕料は十五万円計として  
ございまして、このうち監視船の船体及び人により  
ますので、これに七万円より休惣所等の修繕が十八  
万円、北条休惣所等の修繕に十五万円、館山休惣  
所への修繕に三万円計よりまして、二四節工事訪員  
費三十一万円のうち主なものとして、臨時灯  
六万九千円、加古休惣所の更衣室新設に五万円

北条海岸巡查派出所設置委員として三月その他船形休憩所へ移転費館山棧橋の案内所等見込みとして計より一より以上をいいます。

・総務課長(山口 実君)一四七頁第九款財産費について御説明申し上げます。

昨年より十一万七千三百円増となっております。

第一項へ百五十万は元千葉銀行北条支店の買収費で毎年百五十万ずつ出ているものでございます。

次の積立金二十万五千八百円は市条例による積立金でございます。

財産管理費として七万七千三百六十円増となっておりますがこれは市有財産で警察官に提供している市の官舎駐在所等がいたるにあるので修繕料として

八万円計といたのが主なものでございます。

。選管書記長（大島重義君）二款選挙費について申  
—エグります。

三六年来選挙は全然行われないうえとみでござい  
ますので、平常的の経費で計上いたします。

今年三万二千七百十円の増額でございますが  
これは人件費の増によるものでございます。あとは

昨年とほぼ同様でございますので、記して御了承  
願います。

。総務部長（山口実君）三款公債費について御報告申しエグります。  
昨年に比べて百七十九万二千円増となっております。  
元金償還において六百七十五万二千円、十円計上いた  
す。これは二九節賠償及び償還金の市債の合計でござい  
ます。次に利子で六百三十八万四千四百四十円計上いた

これは利子及び割引料の付託に示される各市債の利  
子でございまして、百四十六万ばかり増になつてゐるのば  
やはり庁舎の關係でございまして、

一時借入金は前年の例にすぎまして一六四十六万七千円  
計といつてございまして、

・税務第一課長(角田 巖君)徴税費本年は百万四千六百四  
十円を計としてございまして、昨年に比べて六十九万七千七  
百円の減額でございまして、これは昨年の固定資産  
の評価替えを行つたので本年はその必要がないので  
減額いたつてございまして、その他につぎましては付託により  
御了承願いたします、

・税務第三課長(多田俊一君)諸天出金第三項徴税費について  
御覧の申してございまして、

・利子もの關係予算三百四十一万九百九十円でござい



ます。大体主なものとして申しあげますと職員手当で  
三万円減つております。これは差押之手当でござい  
ます。御承知の通り最近では納税組合等がでま  
す。非常に減つた関係で三万円減で計としていた。  
燃料費は今後納税組合等、連絡徴収関係のために  
カブト購入したいというものでそのために新と燃  
料費を加えたいでございします。

四目奨励啓発費は前年と比べて十九万九千八百  
四十円の増でございします。これは償費で二百三十  
万五千九百円＝十万ばかり多く計としていた。  
これは本年を納税組合の増加とみまして現在二  
三五組合にございします。五〇組合位まで増加さ  
していきなうと考えてこの増加分を現年交の納税  
状態とみまして計としていた。

二 倉山町議会

。総務課長山口実君第三項市振興費について申し上げます。  
本年三十万増額し、三六節勤労者厚生対策預  
託金として三十万労働金庫に預託し、勤労者の  
福祉施設に用いると、するものでございます。

四項新市町村建設費に六万四千五百円、これは計  
画調整年度第三年分でございます。一応全般的  
なものでございまして、

第七項繰出金につきましては、特別会計休養施設植  
山荘へ二百八万三千円繰り、今年末増築分  
へ財源に供するものでございまして、

次に一六三頁予備費が本年通り三百万円計、

その外合計、比較増の欄に六千四百二十七万二千百  
と御記入願います。

劉議長(里)川佐太郎君、総いて一般会計支入の部の説明  
下被めます。

。総務課長山口 実君、本年支市税において一億五千七百十  
九万六千四百五十円、前年に比して千七百六十九万  
六千百円、増となり、てよります。

各目け本年元に配付の説明書によつて御了承願います。  
次にニ款国有提供等所在市町村助成交付金において  
百七十万計といつて、これは三五年迄、実績を  
みまして計をいひました。

ニ款地方交付税で八千万計をいひました。三五年迄の  
決算より額は八千二百九十万に減つていひます。  
が昨年の国勢調査の結果、館山市の人口等が減少  
した結果、一億二千九十万減額八千万円計といひま  
した。

次に公営企業及び財産収入で本年より百九十四万  
六千八百八十円計より、昨年に比べて  
二十四万四千七百七十円増でござります。この主な  
ものは財産収入積立金において、里見城復元資金  
利子八十三万二千円、財産売却代金の十一万九千百  
円が主なものでござります。

次に分担金及び負担金において三百六十七万五千  
四百四十円計より、昨年に比べて十八万七千  
二百円減少となっております。これは第一、児童  
保育費負担金において、園児の減少により同額の  
減少でござります。

次に使用料及び手数料は二百五十三万六千九百  
四十円増額計より、各目の収入見込みと  
計より、より増えています。

年教科十七万五千五百円計といたす。

七款国库支出金六百九十六万八千七百三十二円の増となつております。これは生活保護費において昨年もり生活保護費負担金といつて政令により見込み額下計したものでございします。身体障害者援護費負担金も政令に示され二分下計といつたものでございします。

文教施設負担金はお千元に配付の税明書により御了承願います。

次に国库補助金で二百三万四千三百五十円の減額となつております。これは都市計画事業費において七百三十三万の減となつております。本年を施行される都市計画路事業の予定九百万に対して国库補助の二分の一でございまして、これは減額の原因でござい

ます

次に、款果又出金三百九万七千百円は負担金、補助金、おのゝ本委員の額下、ト計といふ。――すうたあと九、一〇、一一、一二款は付託並の記帳書目によつて御了承願ひたいと思ひます。

副議長(黒川佐太郎)以上で一般会計を入り出の説明を終ります。――暫時休憩いたします。

三時 五分 休憩

三時 三〇分 再会

副議長(黒川佐太郎)休憩前に引続きの説明を申します。

特別会計、説明を求めます。

厚生課長(伊藤幸太郎)公益質屋会計でございますが、最

辺の傾向といつて利用者が若干減つておりまして約二十三万ほど収入減を見込みまして五百六十一万七千余月の事業費を計上しました。

各節にそれによつて必要を費を計上してございますので御了承願ひたいと思ひます。以てございまして。

保険課長(神作孝次郎君) 特別会計国庫健康保険について申し上げます。又おつ申し上げます。

市役所費で昨年に比べて百五十四万円ありの増でございましてこれは人件費の増と備品の免名印刷機三十万計その他ものがあつたものでございまして。

二款保険給付費 前年に比較して千四百五十五万一千円余の増であります。この主なものには療養<sup>給</sup>付費で

これは皆保険取扱ひの問題から給付制限撤廃による入度の際、給食履具設備に關する費用と本年七月

以降一、朝川療養給付費などの自然増等バふもな  
るゝでございます。この増額、算出の基礎につまじ  
てはお手元に参考資料として配付してありますので  
これによって御了承願います。

ニ款保健施設費で十五万二千百十円減額計といま  
す。これは健康相談に必要な諸費のうち薬  
品代と委託料に減額したものが主なものでござい  
ます。

四款趣旨普及費でございます。が昨年に比べまして  
十四万六千六百円の増となっております。この主な  
ものとして、これは宣伝費、報償費、これは運営  
協力組合などの方々に報償費として出すのが主な  
ものでございます。これは保険料の扱いが多くな  
って関係でございます。



五、六、七款は昨年と大差ございませんで付記によ  
つて御了承願います。

就いて方入について申し上げます。

事業勘定方入一款国民健康保険料でございすすが  
本年度三十九百四十二万五千余円計といつて  
前年に比較して三百六十五万二千余円の増  
でございす。これは方出で申しつて通り給付範  
囲の拡大、一〇%の値上げ等が主なものでございす。  
三款四款昨年度と大差ございませんで省畧させてい  
ます。

五款国庫支出金本年度二千四百七十八万六千五百円  
七百四十二万九千五百円の増額でこの主なものは療養給付  
費負担金、療養給付費の増嵩による分と二目の特別  
療養給付費補助金の二百四十二万円でございす。

これは特に特別療養給付費七月以降来年度の三月まで  
九月分の一〇%の値上げに對する補助金と計上いたし  
まわけておきます。

六款七款前年同様でございますので省畧させていただきます。

八、九、一〇款も付託によつて御了承願います。

以上を合計六千四百三十五万四千円でございます。

就いて直営診療施設勘定支出第一款施設費で本年

度三百八十五万余円計上しております。昨年に比較いたし

まして十九万三千円の増となっております。これは人

件費の増と備品費で輕二輪車と一台購入したとい

と思ひまして十五万計上いたしたわけでございます。

これが主なものでございます。あとは昨年と大差

ございませんので省畧させていただきます。

次に支入に移ります。第一款診療収入でございますが、これは各目の診療収入の扱い件数などが増額された分と、に計上いたしました。

次に一部負担金で、今年ま百十六万八千円余計といつて、昨年と比較いたしました。三万二千円ばかり増になつておりますが、これも先ほど申しあげました増額分を見込んでおきましてございます。

三、四、五、六款は前年と比較いたしました。大差ございませんので省略させていただきます。

七款雑収入本年は八万五千あり、前年と比較して三万四千円の増となつておりますが、これは二項の雑入八万五千百ばかり一部未納金診療収入下徴収いたつてい、かようなわけに、に増と細んをわけてございます。以上診療所予算四百七十六千

四百六十円下計より

合計歳入六千八百四十三万四百六十円、予算とも  
って今年度の運営として参りたいと思つてお  
ります。以上でございます。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)と畜場へ予算でございます。  
主なものといつて工事請負費で二十一万計と  
いふこと。これは補助タニク下一つと畜場の  
修理と一ヶ所。それからトタニの張替えと一ヶ所合  
計いふこと。二十一万計といふにわけがございます。  
もう一つは原材料費の十一万六千円でございますが  
これはかぬてかゝういふ問題になつております。血  
痕の処理で動力吸引ポンプの処理をしてみたい。試  
験としてやってみたいというところで備品費として  
十万円。原材料費としてそれに伴いますところの

貯水槽下作、て処理したいということでごまいます。  
その他につきましては、平常的経費でごまいます。  
ので省費させていたまいます。

支出合計八十七万百円で、昨年より四万四千円減  
でございします。この減の理由は、やはりと穀の頭数  
が減少してありますので、それらを見込みまして、若  
干減らしたわけでございします。

次に簡易水道関係でございします。昨年に比べまし  
て十七万余円の減でございします。これは、昨年の執行に  
まして、工事費それらが減つてある関係でござ  
います。本年が予算五十五万四千四百円でございま  
す。以下支分にございまして、特別に申しさげる点とし  
て、ごまいます。で、これによつて、仰了承願します。

商工水産課長 羽山 啓雄 君（特別会計休養施設会計でござい

予すば本年支総額二千百九十二万六千三百円計とい  
 たり予すばおもひなものは休養施設増築事業費  
 といひ予すば千四百八十千円計といひ予すば開設  
 以来非常に順調に営業を続けておるわけでございます  
 まして利用者の需要と合はしめて厚生省の指導  
 方針が變つて参り予すば休養施設は一五〇人かう二  
 五〇人程度の收容所に対し施設するといふふうな方  
 針がござりまするので、に約一ハ一坪の二階建の増  
 築をもくろんだわけでございます。この主な財源は  
 起債と一般会計の繰出金。そのほかは大體一年間  
 の事業収入を見込みました。いれゆる独々採算  
 制に基いたもの下見込みにだわけでございます。うで  
 以下付記によつて御了承願ひたいと思ひます。  
 以上でございます。

。副議長(里)川佐太郎君以上とて各予算案の説明は  
終ります。

会議日程についてお諮りいたします。昨日決定された  
本会議日程によりますと明十三日は本日に引き続き  
各予算案の内容説明となり、お諮ります。各予算案  
の説明は、今全部終了いたしますので明十三日  
は議案審査のため休会といたします。  
これに御異議ありませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

。副議長(里)川佐太郎君御異議なくと認めます。

よって会議日程は変更されました。従います。明十  
二日より一五日まで議案審査のため休会と決しました。  
次会は三月十六日午前十時開会と。その議事は通告  
による行政一般質問を行います。

本日へ会議はこれをもつて散会といひます

昭和三十六年三月十一日午後三十五分散会



